

転倒予防靴下の効果検討



つま先が上がるから、足が軽く、歩ける!



第50回
全国自治体病院学会で発表されました。
2011年10月19日(水)・20日(木)
東京国際フォーラムにて

目的

株式会社コーポレーションパルスターと広島大学とが共同で、H19年に開発・商品化した「転倒予防靴下」が、後期高齢者の歩行・バランス機能に及ぼす効果について検証した。

- 製 造：株式会社コーポレーションパルスター（広島県 東広島市 安芸津町）
- 素 材：綿85%・ナイロン10%・ポリウレタン5%
- 価 格：1,575円

対象

2010年12月～2011年4月の間に、当院に入院した後期高齢者（75歳以上）で、疾病の回復期になり、下肢の運動麻痺や知覚障害がなく、自立歩行可能の患者のうち、今回の検討に協力の得られた20人とした。

- 内 訳：男性11人・女性9人
平均年齢…79.4±3.9歳

方法 1

●歩行機能

- ①10m歩行時の所要時間 ②10m歩行時の歩数
- ③10m歩行時の平均歩幅 ④最大1歩幅

●バランス機能

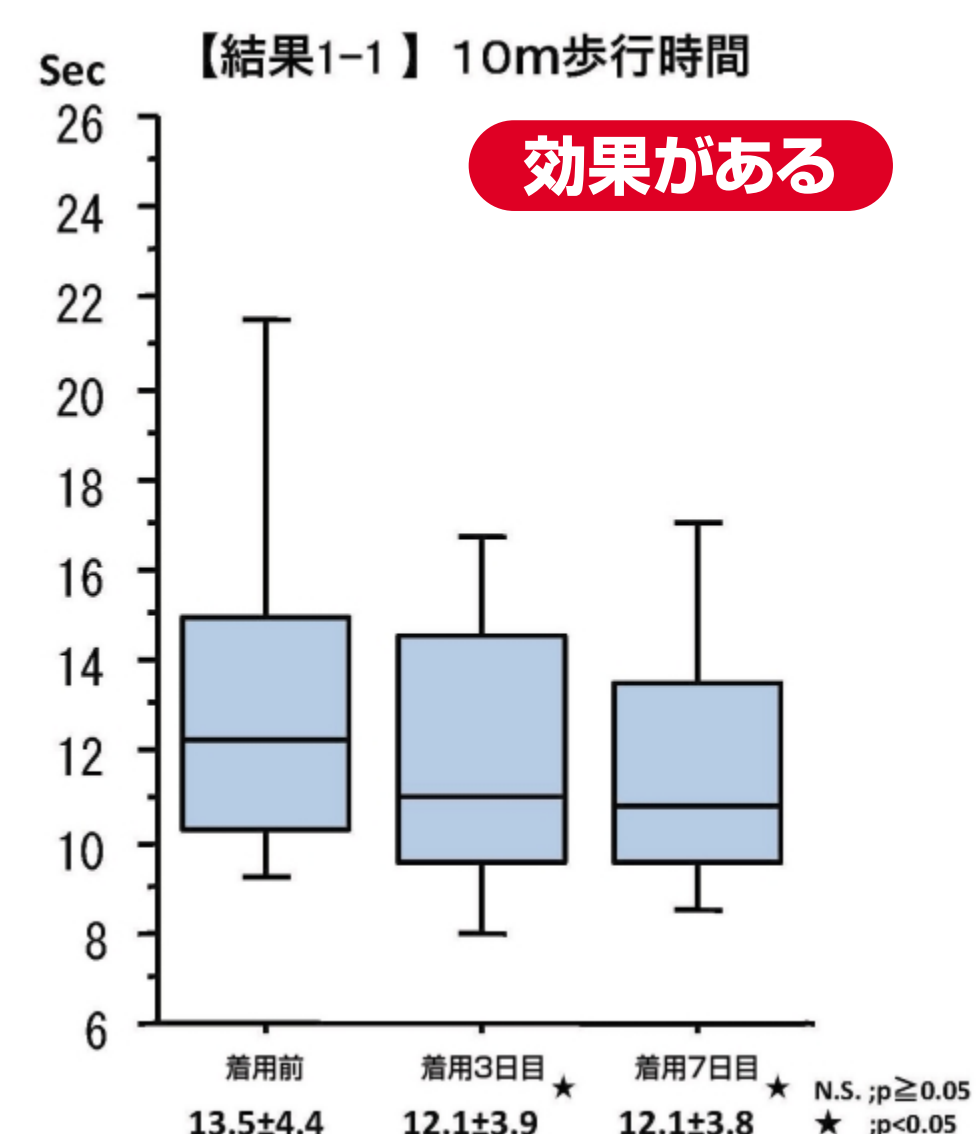
- ⑤ ファンクショナルリーチテスト
（※肩幅の足位で起立し、肩90度屈曲位で上肢を前方に伸ばす最大限の距離を測る測定法）
- ①～⑤を転倒予防靴下を着用前・着用3日目・着用7日目に測定した。

方法 2

靴下着用後7日目に看護師が対象者に対して聞き取り調査を行った。

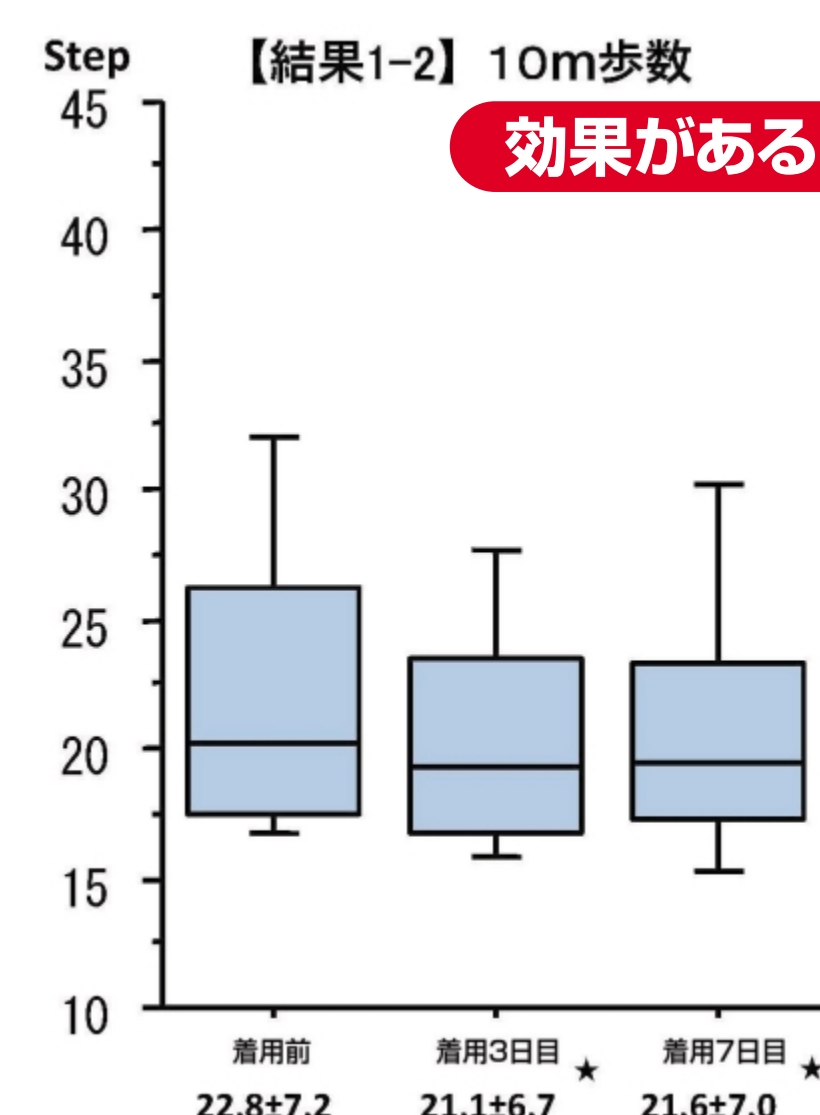
結 論

転倒予防靴下の着用により、歩行・バランス機能は有意に改善し、聞き取り調査においても転倒予防靴下は転倒予防に効果があると感じている。



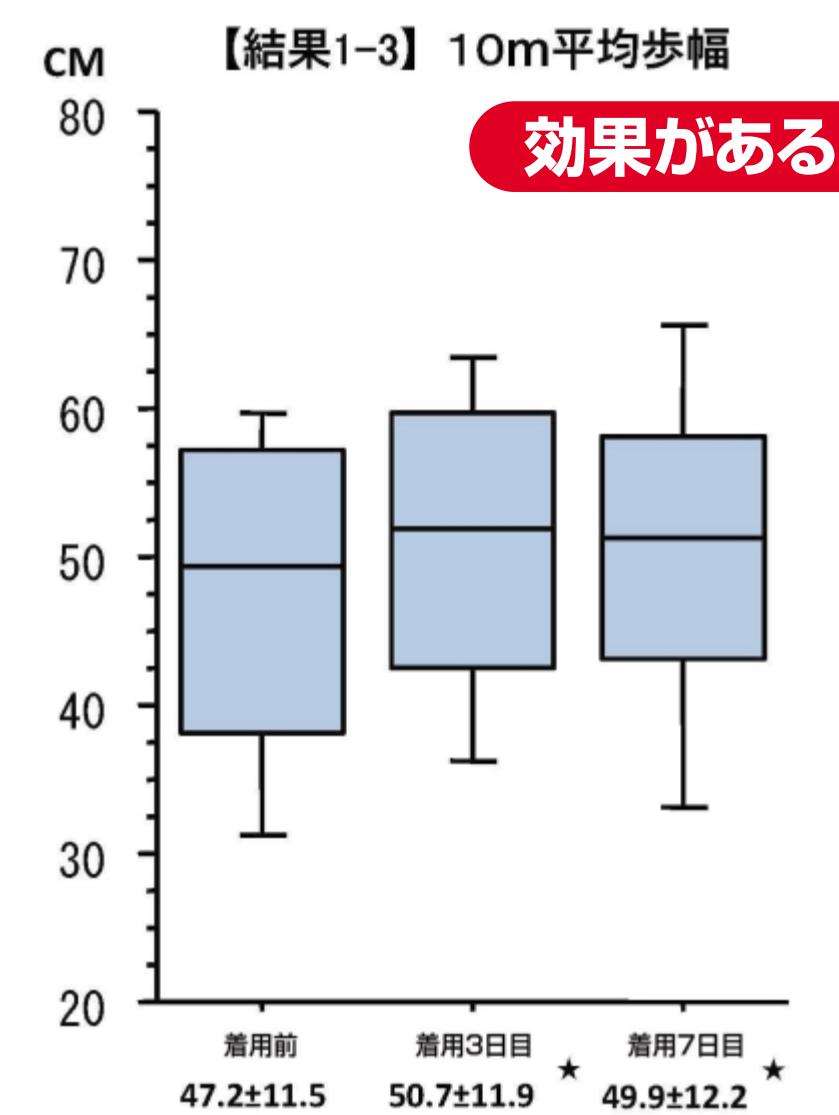
●10m歩行時の所要時間

グラフ：縦軸が下がるほど早く歩いている。
早く歩ける
↓
歩行が安定している
↓
転倒しにくい。



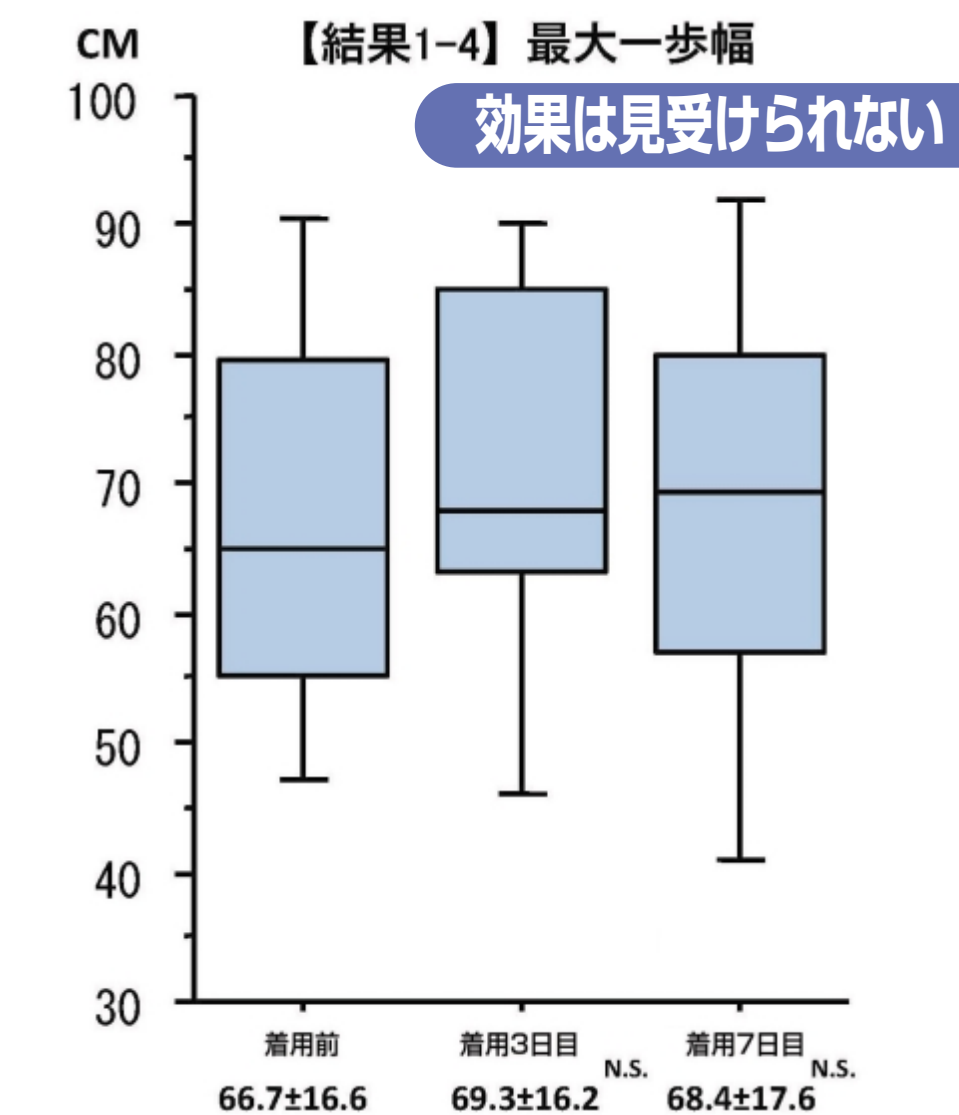
●10m歩数

グラフ：縦軸が下がるほど歩数が少なくなっている。
歩数が少ない
↓
歩幅が広い
↓
歩行が安定している＝転倒しにくい。



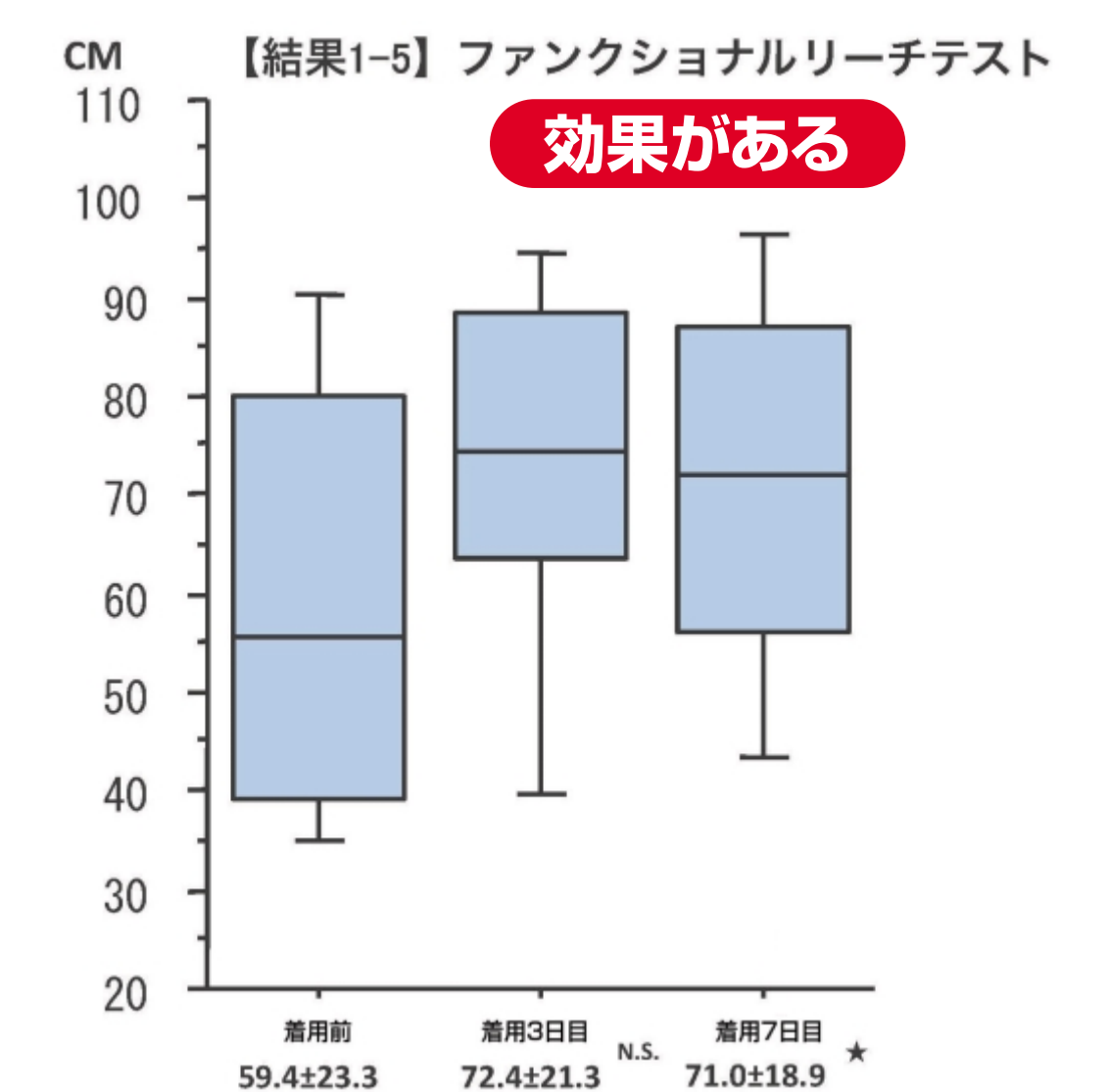
●10m歩行時の平均歩幅

グラフ：縦軸が上がるほど歩幅が広がっている。
歩幅が広い
↓
歩行が安定している
↓
転倒しにくい。



●最大一歩幅

グラフ：縦軸が上がるほど最大歩幅が広がるが効果は見受けられない。



●ファンクショナルリーチテスト

グラフ：縦軸が上がるほど転倒しにくい。